第８３号
２０１５年4月

風

発　行
群馬県生協連女性協議会
群馬県前橋市大手町３－１９－３
『風』はホームページでもご覧いただけます
http://gunma.kenren-coop.jp/
Eメール：mail@gunma.kenren-coop.jp

消費者まつりに出展し共同参画と人権を訴え　2月15日（日）
女性協テーマは「広げる男女共同参画～ともに生きる～」

消費者まつりは、群馬県生協連と群馬県くらしの会連絡協議会とでつくる実行委員会が企画し、県の後援をうけ、毎年県庁の県民ホールを会場に開催しています。

２０１５年消費者まつりは「変えようくらし　つくろう未来」を全体テーマとし、各団体がサブテーマを決めて工夫を凝らし様々なコーナーを出展しました。

昨年は直前の大雪で急きょ中止になってしまいましたが、今年は、天候にも恵まれ、およそ１３００名の方々がイベントを楽しみました。

消費者まつりの会場のようす

県連女性協議会も毎年出展しています。今年は「広げる男女共同参画～ともに生きる～」をテーマに、女性協の活動と、昨年１０月に視察研修会で見学した草津町の重監房資料館のことなどをパネルにして展示しました。来場者の皆さんに男女共同参画やハンセン病のことをクイズを解きながら知ってもらい、コーヒーでほっと一息くつろいでいただき、募金の協力をお願いしました。「夏休みに重監房資料館に子供を連れて行き親子で考えたい」との感想もいただきました。約７５人の方々から１万８５１円の募金をしていただきました。寄せられたお金は『群馬ハンセン病訴訟を支援し共に生きる会』に贈呈し、活動に役立ててもらうことにしました。

女性協のブース

今年の消費者まつりは最後に、各団体から提供していただいた沢山の景品を前に、大抽選会が行われ、当選者名が読み上げられると大きな歓声があがっていました。

折りたたみ自転車や伊勢崎銘仙などの豪華景品も用意され盛り上がった大抽選会のようす

編集委員　下山淳子（コープぐんま）

フートピア２１の視察研修に参加

3月13日（金）

女性起業家の活躍のようすや森林組合の施業現場などを視察

フートピア２１主催の「第９２回国際協同組合デー記念交流集会」が３月１３日（金）開催され、４０年にわたり農産物の加工・販売に取り組んでいる利根町（沼田）の金子か祢さんの活躍のようすや、渋川広域森林組合の施業現場などを視察し、女性協も参加しました。

（「フートピア２１」は群馬県生協連、ＪＡ群馬中央会、県森林組合連合会、県漁協で構成し、県内の協同組合間連携を深める活動などを行っている組織です）

金子さんのご自宅で話を聞きました

最初に「甚内茶屋」を開設した金子か祢さんの加工場を見学し、そのあとご自宅にお邪魔して「甚内茶屋」の取り組みや経営のご苦労についても細かく説明していただきました。金子さんが、「消費者の立場になって物を作り値段をつけ、自分が欲しいと思えるものを作る。食べるものは“安全・安心”が第一で“もったいない主義”とは相いれない」など理念を熱く語られたのが印象的でした。昭和５０年に豆もち、おかき、赤飯などの農産加工品を初めて老神温泉朝市会で販売し農産物直売の先駆けとなってから４０年間、農業と家事、子育てとともに社会と関わりを深めていることに敬服しました。話してくださった金子か祢さんとお嫁さん（陽子さん）との関係も微笑ましいほどすばらしく感じました。金子さんは３月４日に、国の「農山漁村女性・シニア活動表彰」女性起業・経営参画部門で最優秀賞（農林水産大臣賞）を受賞されました。

金子か祢さん（右）と陽子さん

昼食後に東日本でＮ０１と言われている田園プラザ川場を見学しました。広大な土地の中に建物、池などがあり、新鮮な野菜物産店・食品加工施設・体験施設などが並んでいました。

次に渋川広域森林組合集約化施業現場を見学しました。森林組合の目的、森林施業（素材生産）の流れについてわかりやすく説明を受けました。伐倒・枝おとし・一定の長さに伐るなどはヨーロッパでの研修を活かして機械化し、森林を守り・育て・国産木材の有効活用につとめているそうです。あまりにも素早く伐倒し、造材ができるので感動しました。

ハーベスタによる伐倒（上）やプロセッサによる造材（右）など施業現場を見学しました。

最後に県庁“ぐんま花燃ゆ大河ドラマ館”を見学しました。常設・展示で大河ドラマ“花燃ゆ”の世界観を存分に体験できました。

編集委員　甫仮文子（群馬中央医療生協）

（県連女性協議会主催）

組合員学習交流会

子どものココロがわかる ハッピー子育て講座

講師 **深澤尚伊** 先生

前橋協立病院小児科医
群馬県民主医療機関連合会会長
前橋協立病院前院長

5月16日(土) 14時00分～16時30分

会場 群馬県生涯学習センター4階第1研修室
（〒371-0801　前橋市文京町２-３０-２２）

子育てには、特別の知識や能力が必要ではないかと考えると、子育てが苦痛にさえ感じられる事も経験しているのではありませんか？小児科医 36 年間で関わった、たくさんの親子から学んだ子育ての極意を、参加者の方々にシェアできるような、楽しいひと時を過ごしましょう。

申込み時に①氏名、②組合員・役職員の別、③連絡がつきやすい電話番号をお聞かせください。保育を希望される方はお子さんの、①名前、②性別、③年齢（３歳未満は月齢も）をお知らせください。

お知らせ

申込み必要
（参加費無料）
定員７０名
（多数時抽選）
保育あり

■４月３０日(木)までに各生協の女性協窓口担当か女性協運営委員にお申込み下さい。

■お問い合わせは県生協連事務局までお電話ください。

運営委員学習会でヌエックを視察

11月12日(水)

共同参画・人権に関する世界の情報を集積

２０１４年１１月１２日（水）女性協議会では運営委員学習会を開催し嵐山町（埼玉県）にある独立行政法人国立女性教育会館（ヌエック）を視察しました。この施設は昭和５２年に設置され、女性教育指導者やその他の女性教育関係者に対する研修、女性教育に関する専門的な調査及び研究等を行ない、女性教育の振興や男女共同参画の形成に資することを目的としています。

８時１５分敷島公園駐車場を出発。９時半から職員の説明を受けながら広い敷地（１０ヘクタール）内を歩き、女性アーカイブセンター、実技研修棟、日本家屋施設、研修棟、運動施設、女性教育情報センターなどを見学しました。

１１時から講義を聞き「女性活躍の推進と男女共同参画」について学習しました。①男女共同参画の歩み。②男女共同参画とは。③わが国における男女共同参画。④国立女性教育会館の役割について詳しく説明を聞き、女性のための法整備の推移や、それをめぐる活動も紹介していただきました。しかし男女雇用機会均等法や男女共同参画法、ＤＶ法、児童虐待防止法などが整備されても、女性の管理職や議員は増えず、雇用での男女差別も賃金格差もなくならず、安倍首相の言う「女性の輝く社会」とは何なのか考えさせられてしまいました。

１２時から食堂で昼食。メニューもたくさんあり選ぶのが大変でした。

女性アーカイブセンターには、この世に一つしかない貴重な資料が集められ、保存、公開されています。

私が特にこの施設で素晴らしいと思ったのは、女性教育情報センターに所蔵されている資料の多さ（図書１２万冊以上、新聞等の切り抜き３４万点）と、庭に池があり、たくさんの樹木が植えられている事でした。こんな環境で研修や読書、ジョギングが楽しめるなんていいですね。

編集委員　猪俣友子（北毛保健生協）

各生協から寄せていただいた原稿をそのまま掲載しています。

利根保健生協

利根保健生協創立60周年記念式典開催

利根保健生協創立６０周年記念式典が、２月１５日（日）利根沼田文化会館で、沼田中学校吹奏楽部の会場を圧倒する演奏のオープニングで盛大に開催されました。あいにくの大雪でしたが多くの来賓を迎え、組合員、職員４百数十名が６０年の歴史を振り返り、９月の新病院開院の新たな未来への１歩としました。

功労者への感謝状贈呈式が行われ、「６０年のあゆみ」のパワーポイント映写には懐かしの声が上がりました。

チェルノブイリ原発で被爆したナターシャ・グジーさんの透き通った歌声に耳を傾け、午後の組合員演芸大会では、矢瀬太鼓の勇壮な響きに始まり、２２支部の歌や踊りが披露されました。参加者には「創立６０周年記念誌」が配られ、新たな結束を生んだ１日となりました。

群馬県学校生協

種々の取り組みをとおして組合員へのサービスを向上

学校生協は、群馬県内の公立小中学校の教職員によって昭和 23 年に設立された歴史のある職域生協です。現在は公立小中学校教職員の 90％と公立高校教職員の 65％を組織し、組合員数は１月末で 15, 225 人（退職継続者 1443 人を含む）となっています。

各職場の「学校生協係」に日常的にご協力いただくとともに、年２回開催する「地区運営委員会」では、経営概況の報告、事業紹介、キャンペーン等の商品検討会を通じて各職場での意見要望を事業活動に反映しています。また、昨年から「継続組合員の集い」を開催して、事業内容のご案内や意見要望を伺う機会を設けています。

組合員参加セミナー

主な事業は自主供給・指定店供給・生損保の収納代行・損害保険代理店及び共済代理店で退職者予定者向けの教職員共済説明会、ライフプランセミナーを開催して組合員のくらしを応援しています。特に自主供給の中心企画である夏・冬の「生活応援５％割引セール」と年３回実施する「ひとり一品以上利用拡大キャンペーン」は全職員の総力を挙げて取り組み大きな実績をあげています。

社会貢献活動として、指定店も含めて学校訪問する車両に「学校安全パトロール」ステッカーを貼付、年３回実施する「ひとり一品以上利用拡大キャンペーン」を「東日本大震災義援金企画」と位置づけ、供給高の２％を被災地にお届けするとともに、指定業者会と合同で被災地ボランティアバスツアーを実施しています。また組合員参加イベントとして「生協まつり」「住まいづくりフェア」を県庁生協と合同開催。お互いの特色を活かし、組合員サービスの向上を図っています。

地区運営委員会

（お詫び）前号３面の退任役員紹介の記事で、星野小夜子さんのコメントを「男女共同参画は家庭からと実践してきましたが、・・・」とするところを「男女共同参画センターは家庭から・・・・」と書いてしまいました。訂正してお詫びいたします。